

10月度議員懇談会

## 県内におけるモーダルシフトについて懇談



10月度議員懇談会を10月1日午前11時から福井商工会議所ビルで開催し、73名が出席した。

開会にあたり八木会頭は、「二昨日、自民党の新総裁が決まり、昨日をもって国内全域で緊急事態宣言・まん延防止特別措置が解除された。新型コロナウイルス感染症の長期化により疲弊した国内経済を立て直してほしい」と新内閣に対する期待を述べた。また、「新型コロナウイルスが落ち着いたとしても、人々の生活が元に戻ることは考えにくい。変化した価値観に対応する新たな事業計画の立案が必要であり、当所としても会員

企業のサポートに全力を發揮していきたい」と力を込めた。

続いて、中部運輸局福井運輸支局長の梅藤博幸氏と日本貨物鉄道(株)金沢支店副支店長の松垣史彦氏より「モーダルシフトの推進と南福井駅リニューアル」というテーマで卓話が行われた。

二酸化炭素排出量の少ない輸送手段への転換を意味するモーダルシフトは、SDGsの観点からも注目を集めている。ただ、国内における貨物輸送はトラック輸送が5割、内航海運が4割強、鉄道輸送が1割弱とまだまだトラック輸送に依存する割合が高い。梅藤支局長は「国内の貨物ドライバーは人材不足と高齢化が進んでいる。鉄道輸送を活用いただくことでこれらの課題がクリアでき、二酸化炭素排出量削減にも貢献できる」とし、あわせて国の支援施策の説明を行った。

また、福井県には貨物輸送専門の駅としてJR南福井駅が存在するが、これまでには駅構内の設備が古く、貨車の入換に時間がかかっていた。このJR南福井駅が10月11日よりリニューアル、コンテナの取扱エリアも整備が行われ、輸送する貨物の持ち込み締切り時間も大幅に改善された。松垣副支店長は「2024年には貨物ドライバーの



モーダルシフトの重要性について説明する  
中部運輸局の梅藤福井運輸支局長

時間外労働時間に罰則付きの上限が設けられる。その結果、条件の厳しい荷物は運送業者に運んでもらえなくなる可能性もある。脱炭素社会の実現に向け全国的に鉄道輸送を見直す流れもあり、ぜひ福井県内企業の皆様にも南福井駅の活用を検討いただきたい」と述べた。

最後に、今月21・22日の両日、福井県産業会館をメイン会場に開催される「北陸技術交流テクノフェア2021」の開催概要について村田良昭実行委員長が説明を行い、期間中の来場を呼び掛けた。

## 事業開催結果

9.17 第42回 新商品・  
新サービス合同プレス発表会  
担当/会員サービス課



新商品開発や新たなサービス提供に取り組む事業所が参加し、会場に集まったメディア関係者に対してプレゼンテーションを実施。その後、記者からの取材に応じ、プレゼンで伝えきれなかった新商品・サービスの独自性や新規性について存分にPRを行った。

発表企業：5社  
会場：福井商工会議所ビル 国際ホール

9.10 原子力関連業務 入門研修  
担当/まちづくり・産業振興課



原子力関連業務に従事する上で必要な放射線や施設内の保安活動に関する基礎知識等を説明。受講者は原子力発電所の構造・管理体制について、CG映像を視聴したり実際に現場で使用する機器に触れながら理解を深め、管理区内で注意すべきことは何かイメージを掴んでいた。

講師/株式会社ベスコ、日本原子力発電(株) 講師  
会場/福井商工会議所ビル 会議室D

9.21 第16回ミニ交流会  
「ヨロッサ！」新入会員交流会  
担当/会員サービス課



入会から5年以内の企業を対象とし、交流会を行った。当所事業の活用法紹介、アクサ生命の制度説明を冒頭に行い、その後参加者一名ずつ自己紹介を行った。交流タイムでは、参加者同士が名刺交換を行いながら歓談し、当所職員も交流に参加した。

参加者：16名  
会場：福井商工会議所ビル コンベンションホール

9.21 まちづくり・交通委員会  
担当/まちづくり・産業振興課



昨年度より議論が進む「県都にぎわい創生協議会・エリアマネジメント部会」の活動報告を行った。また、2040年を目標年次とした「県都グランドデザイン」の策定に向けた今後の活動予定や展望について、同部会の運営・コンサルティングを行う後藤代表より説明があった。

参加者：24名  
会場：福井商工会議所ビル コンベンションホール  
講師：リージョンワークス合同会社 代表社員 後藤 太一 氏